



有松まちづくりの会役員会 (7月28日)

第41回絞りまつりについての報告があり、来場者9万人で売り上げもup。この賑わいを絞りまつり以外の期間に少しでももたせるようなアイデアを皆で考えていきたい。7/26(土)に実施された有松小花火大会では、子ども縁日の協力をさせていただき、参加された皆さんに喜んでいただけた。日本遺産のまち有松として、今後は観光まちづくりについても皆さんで考えていきたい、具体案を出し実施していきたい。

まちの
風景
七夕飾り



ひさしとゆうこのリコーダーコンサート 於:Café T-Ryujuu

& 岡本美登里のショーロライブ with宮本隆史 (6月29日)

結成して17年目のひさしとゆうこ(神田ご夫妻)。リコーダー演奏を主とするコンサートは温かい雰囲気に満ちていた。家族の誕生会での演奏がきっかけ。ゆうこさんが以前からT-Ryujuuで音楽教室を主宰していたこともあり、参加者約20名の多くはご家族や生徒さん。各種リコーダーを使い分けての演奏に聴き入ってしまった。記者と同年代で、全8曲は何れも馴染みあるもの。特に"さとうきび畑"とゆうこさんのピアノ伴奏の"中央フリーウェイ"は心に響いた。

後半は特別ゲスト岡本美登里。6年前ゆうこさんとこの会場で出会ったとか。ショーロとはブラジル音楽のルーツ。岡本さんのフルートと宮本さんの7弦ギターの音色が心地よい。自然に体が動き出す。演奏の中で記憶に残るのは"やさしい響き"。岡本さんから神田夫妻へのサプライズ曲があった。ひと月前の自作曲であるとのこと。



ひさし(左)とゆうこ



岡本美登里(左)と宮本隆史

古布の手縫い小物 展示販売 て々二 (ててに) (7月5日6日) 於: 有松小町(中濱商店駐車場入口)

強い日差しの中、東海道を歩いていると、ほっとする場に出くわした。涼しげな暖簾と着物姿。これまでも数か月おきに、"有松小町"に出店しているとのこと。古布を活用して、主にお茶周りの小物を販売。有松のまちにはこのような雰囲気のお店がよく似合う。

訪問日の翌日6日には、古布での菓子切り作りのワークショップが行われた。古布の中には有松絞りの布地もあり、より身近に感じられた。



六弦とコットン 展示室拝見 (7月5日)

梅雨明けの翌日、通りを歩く人はまばら。喫茶の店は大賑わい。庇の下ベンチは風が通り過ぎやすく人影もちらほらある。

展示室を覗くと、これまで利用された作家さんの最新作が飾られていた。見ごたえのある作品も多い。休憩がてら寄ってみては・・・

コーナーの一角に小物づくり作家さんの展示販売コーナー(写真右)もあり、時間を忘れさせてくれる。



▶ **かうち れい/中館 玲愛 2人展「きらきら」** 8/2,3(土日) 9,10,11(土日月)

水彩・油彩など多様な表現。8/2(土)15:00~16:00 アーティストトークあり。

▶ **MNコロシウム**~闘う予定などないけどマスクマン展~ 8/23,24(土日)30,31(土日) 最終日16:00まで

覆面レスラーのグッズを作る二人の作家による販売会。焼き物(陶器)とTシャツなどのアパレル小物が中心です。少しとぼけたかわいげのあるマスクマンたちに会いに来てください!

桜花学園大学留学生 YOUKOSO ARIMATSU(7月16日)

今年も留学生12名が有松に日本文化を学びにやってきました。主に韓国から、兵役義務を終えての方もおり学ぶ意欲はすごい! 絞りや茶室体験の後、サポート役の学生7名を加え3班に分かれて町並みを見学。岡家住宅では短冊に願いを書いたり、山車会館ではからくり人形や太鼓に触れたりして有松の伝統文化を堪能。



寄稿 有松あないびとの会 研修旅行 山村幸雄 (7月1日)

「発酵と醸造が醸す半田」を訪ねました。参加者は23名。半田赤レンガ建物(旧カブトビール工場)から歴史文化をめぐる旅です。"半田市観光ガイド協会"の会員さん5名がガイド。グループに分かれ歴史散策しました。主な見学コースは半田赤レンガ建物→紺屋海道→豪商の住んだ町並み(小栗家住宅・旧中埜半六邸)→半田運河→MIZKAN MUSEUM(MIM)前。のちバスで豊場屋南店(寿司)へ。特別に「尾州早すし」(江戸時代の握り寿司の再現。1貫の大きさが現在の2.5倍)もいただきました。昼食後、國盛酒の文化館とMIZKAN MUSEUM(MIM)を見学して有松に帰りました。

感想です。①厳しい暑さで汗だくの中、水分補給をこまめにとり、しっかり研修し、無事帰りました。②見どころたくさん、試飲試食、買い物もでき、珍しい早すしにも皆さん満足気でした。

③ガイドさんはよく勉強されていて、こちらの質問等に丁寧に答えてくれました。

最後に、半田の繁栄の元は舟運と肥料商いだと考えました。江戸時代、綿作農家の肥料に「干鰯」を売り財を成し、そこから「発酵と醸造」を醸し出していった。いっぽう綿花づくりは知多木綿を生産し、有松絞りに繋がっていた。異なる産業が循環していく歴史が見えてきました。



「尾州早すし」



ガイドさん(左2人)に説明を受ける様子

緑区では近年"クアオルト®健康ウォーキング"の取り組みが進められている。自然や歴史ある町を歩きながら、心と体の健康を促そうとするものである。そのPR動画の撮影会が、椋山女学園大学栃窪ゼミの皆さんにより有松地区で行われた。

蒸し暑い中、撮影を汗だくで陣頭指揮された栃窪教授はじめゼミ生の皆さんの取組姿勢にはただただ頭が下がる思いである。



撮影を終えての記念撮影（右から3人目が栃窪教授）

有松あないびとの会の案内で撮影は進められたが、健康ウォーキング用の動画であることを考慮して町並み全体の特徴をつかめるような説明がされていた。その要点を記すと

- 江戸から明治時代の建物は2階の高さが少し低い"つし2階建て"である。防災上の理由から建物の高さを制限したようだ。
- 藍染の布は直射日光が当たると色に変色する。絞商の建物は日差しから商品を守るため、店の庇は出っ張っている。また、街道の南側に多いのも同様。特に中町西町に顕著である。
- 明治以降東海道の通行は減少し、小売りから卸売りに商形態が変化。それにつれ1階に格子が備え付けられ、重厚な問屋の構えになっている。浮世絵から江戸時代小売りの様子が分かる。



有松絞 丸屋丈助店先 小田切春江
（岡家住宅の江戸時代店頭販売の様子）

冷蔵れいぞう文庫 BOOKLOVE プレオープン（7月10日） 於:moss ARIMATSU

冷蔵文庫とは、冷蔵庫を本棚代わりに、自分で読まなくなった本を他者に渡して読んでもらおうとするもの。持ってきた人は本をラッピングしてタイトルを伏せ、代わりにメッセージを書く。来た人はそれを見て、欲しい本を持ち帰るといったもの。主催者の武馬(ぶま)さんはインスタグラムで知り始めることにした。「この3月、有松に唯一の本屋さんが閉店。本屋さんは、ネットでは味わえない偶然の出会いの宝庫。ならば、本を介して人と人が出会う場を作りたい」と開店。今後、毎週木曜日13:00~16:00に開かれる。

（写真右はイメージで、小型冷蔵庫を使用している。）

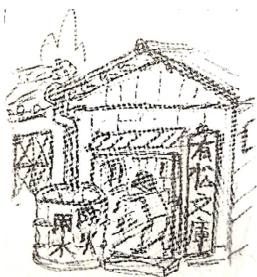
記者が訪れた10日はプレオープン。武馬さんやボランティアの2人は準備に大忙し。本好きが伝わってくる。室内には絵本が多く用意され、合わせて飲み物などを求めることもできる。入店第1号は幼稚園にお迎えに来た親子。お母さんの本好きがビシビシ伝わってくる。幼稚園の帰宅時間と重なり、徐々に興味を持った方がやってきた。ボランティアによる絵本の読み聞かせも行われていた。「西隣りは有松幼稚園、お迎えのお母さんが立ち寄れる場になれば」と武馬さん。



プレオープンの様子



ちょっといい話 有松文庫を知っていますか



有松文庫は、昭和10年、竹田家(竹田嘉兵衛商店)の蔵書を一般に貸し出す目的で設立され、その敷地内に当時としては珍しいコンクリート主体の洋館が建てられ、本が備えられました。昭和17年一般から2千冊もの贈書もあり、図書館としての機能を整えました。童話や全集もの、小説等を借り、多くの人が楽しみました。

本を介して出会いの場を作る先駆けかも。（「有松よもやま話」第20号参照）

有松小学校花火大会・子ども縁日（7月26日）有松小学校グラウンド・校会館バスP

有松の夏の風物詩となりつつある有松小学校の花火大会。今年は5年生有志による中津川野外学習で行われたダンスやPTA役員さん等による手筒花火の披露もありました。またカブトムシ・クワガタムシや光るブレスレット・カチューシャのプレゼントもあり、グラウンド開場前から大勢の親子連れで大賑わいでした。有松まちづくりの会が運営協力した校会館バス駐車場での子ども縁日には、キッチンカーやサメ釣り、水風船やスーパーボールすくいを楽しむ子どもたちの笑顔があふれ、嬉しい夏休みの1日になったようです。



有松郵便局、絞りシャツ姿でおでむかえ 7月25日～



名古屋有松郵便局(立川弘樹局長)では、お客様に少しでも有松らしさと涼しさを感じていただけたらと、藍色の絞りシャツを着用することにしたそうで、唐松絞りや巻き上げ絞りなど絞り柄も色々で局内に映えます。「暑い時にはクーリングスポットとして有松郵便局をお気軽にご利用ください」(立川局長談)との事。

三吟塚とは

細根山オアシスの森の一角、案内板近くの竹林の中に三吟塚がある。三吟塚には1688（貞享5）年に当地を訪れた芭蕉の愛弟子榎本其角(きかく)が高台から詠んだ句が、下里知足と寺島業言（鳴海宿本陣主人）の句とともに彫られている。

富士山のような形をしたこの石碑は、1849(嘉永2)年に鳴海酒造元 千代倉江戸店番頭の小田新兵衛が建立した。

湯地昭夫 スケッチブック②



細根山三吟塚(さんぎんづか)

催事・行事予定

- 8月3日(日) 10:00 有松絞伝統文化親子教室2025
竹田家住宅 NPO法人コンソーシアム有松
- 8月18日(月) 18:00 有松町並み相談会 有松コミセン
- 8月24日(日) 7:30 かえで道清掃 有松まちづくりの会
- 8月24日～11月24日(全5回) 有松絞親子体験教室2025
申申居 NPO法人コンソーシアム有松
- 8月25日(月) 18:30 有松まちづくりの会役員会 有松コミセン

発行者 中濱 豊(有松まちづくりの会 会長)

編集者 加藤明美(有松まちづくりの会 広報部長)

pegasusb@mc.ccnw.ne.jp 取材・撮影 伊藤総俊

有松まちづくりの会は新規会員を募集しています。(年会費1000円)

詳しくは上記アドレス又はお近くの会員までお問い合わせください。

有松まちづくりの会はホームページを公開しています。「有松のまち」で検索。

「有松かわら版」をカラーでご覧いただけます。

← お申し込みはこちら



有松天満社 奉納 虹色ふうりん

《編集後記》

今月号のキーワードは“人と人との出会いの場”
有松では多くの催し物が行われている。そこでの出会いが次の新たな出会いをもたらしていることが取材から見えてくる。これこそ有松の魅力ではないかと思う。店先、庇の下に置かれたベンチも出会いに役立っているようだ。